

第3章

目標とする都市像

- (1) 基本的な考え方..... 3 0
- (2) 五泉市の将来都市構造..... 3 5



(1) 基本的な考え方



1) 目標とする都市像

集約型都市構造の実現に向けて

集約型都市構造とは、市街地の拡散や郊外化を抑えるとともに、高齢化社会や環境にも配慮し、歩いて行ける範囲内に職場や買い物、病院、娯楽等の機能がコンパクトに整ったまちの形のことです。市街地間や市街地と集落を公共交通等のネットワークで結ぶことにより、相互の機能を補完し合い、暮らしやすいまちをつくることができます。

五泉市においても、近年、人口減少、高齢化、主力地場産業の衰退、中心市街地空洞化等に伴う投資余力の減退の他、郊外型店舗の立地増大による市街地の拡散や土地利用の混在、自動車交通への依存増大に伴う公共交通の衰退・地球環境悪化等、持続可能な都市づくりへの不安が増大しています。それらを受け、第一次五泉市総合計画では、五泉市の土地利用を「コンパクトシティを基本として進めていく」としており、本計画でその具体化が求められています。

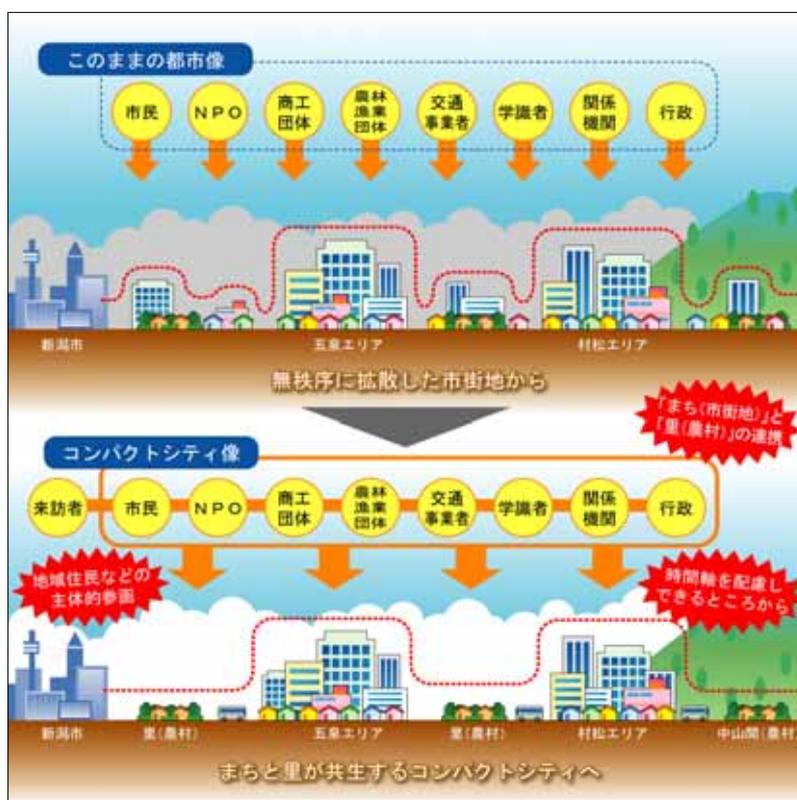


図 - 五泉市のコンパクトシティの概念

五泉市の目指すコンパクトシティのイメージ

五泉市都市計画マスタープランでは五泉市の目標とする都市像を、
『2つの市街地の魅力向上と連携、集落環境との調和』
と定めます。

五泉市は、五泉地区と村松地区にそれぞれ特徴の異なる都市核が存在するため、それらの特徴を個々に活かした都市形成を行いながらも、合併による一体感の醸成・産業や生活面の質的向上を図るため、市街地間はもちろんのこと、周辺農村地域との有機的連携を図る姿を目指します。

都市と農村との移動・交流環境が整うことにより、市全体として、開発と保全のバランスがとれた経済発展、環境緩和、快適な暮らし、社会的なつながりの再構築へとつながるものと考えています。

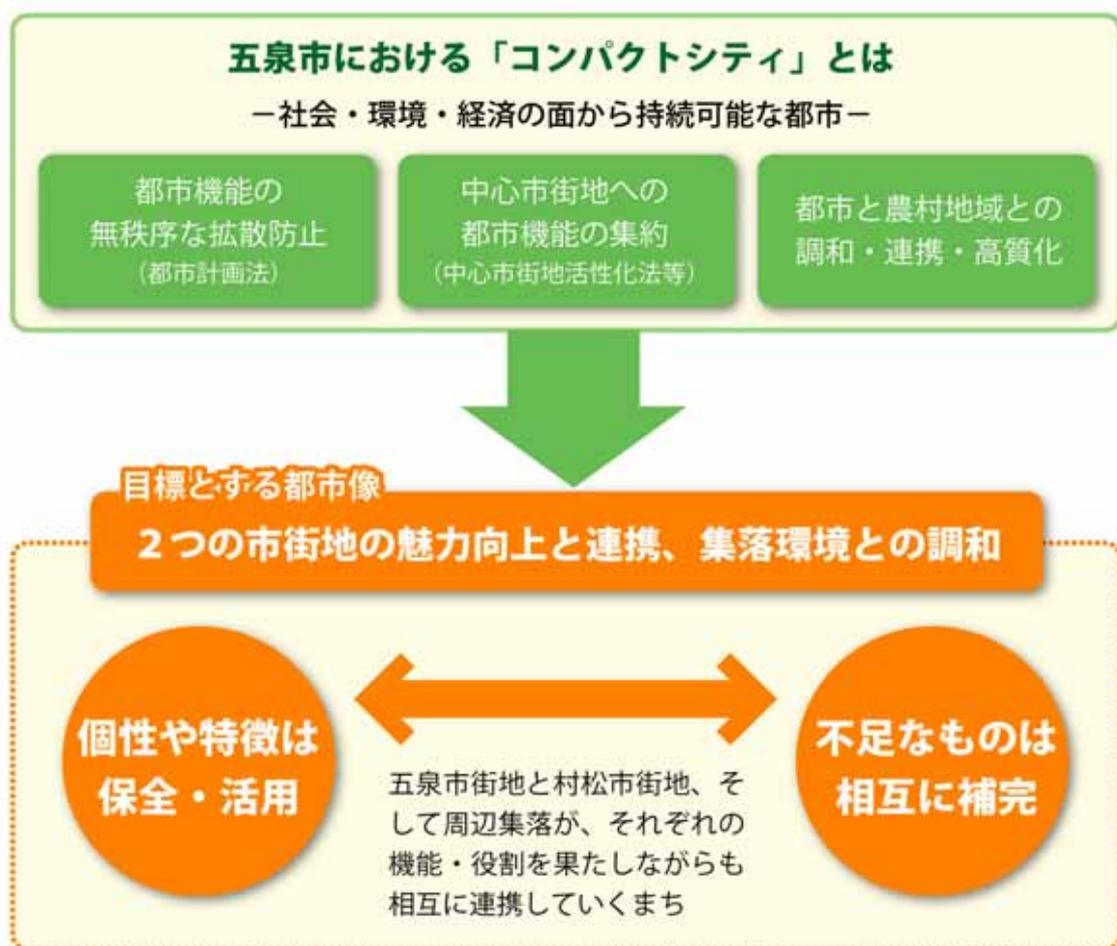


図 - 目標とする都市像の考え方

2つの市街地と周辺の集落環境には、互いに有している機能、あるいはいずれかにしかなく補完すべき機能があります。その関係を認識した上で、それぞれが有する機能・役割を果たしながら、無いものは補完しあい、効率的かつ計画的に相互連携していくまちを目指します。

なお、五泉市にはない文化・芸術、大学、三次医療施設など、特に高次な都市機能について、近接する新潟市などへ機能依存を図ります。

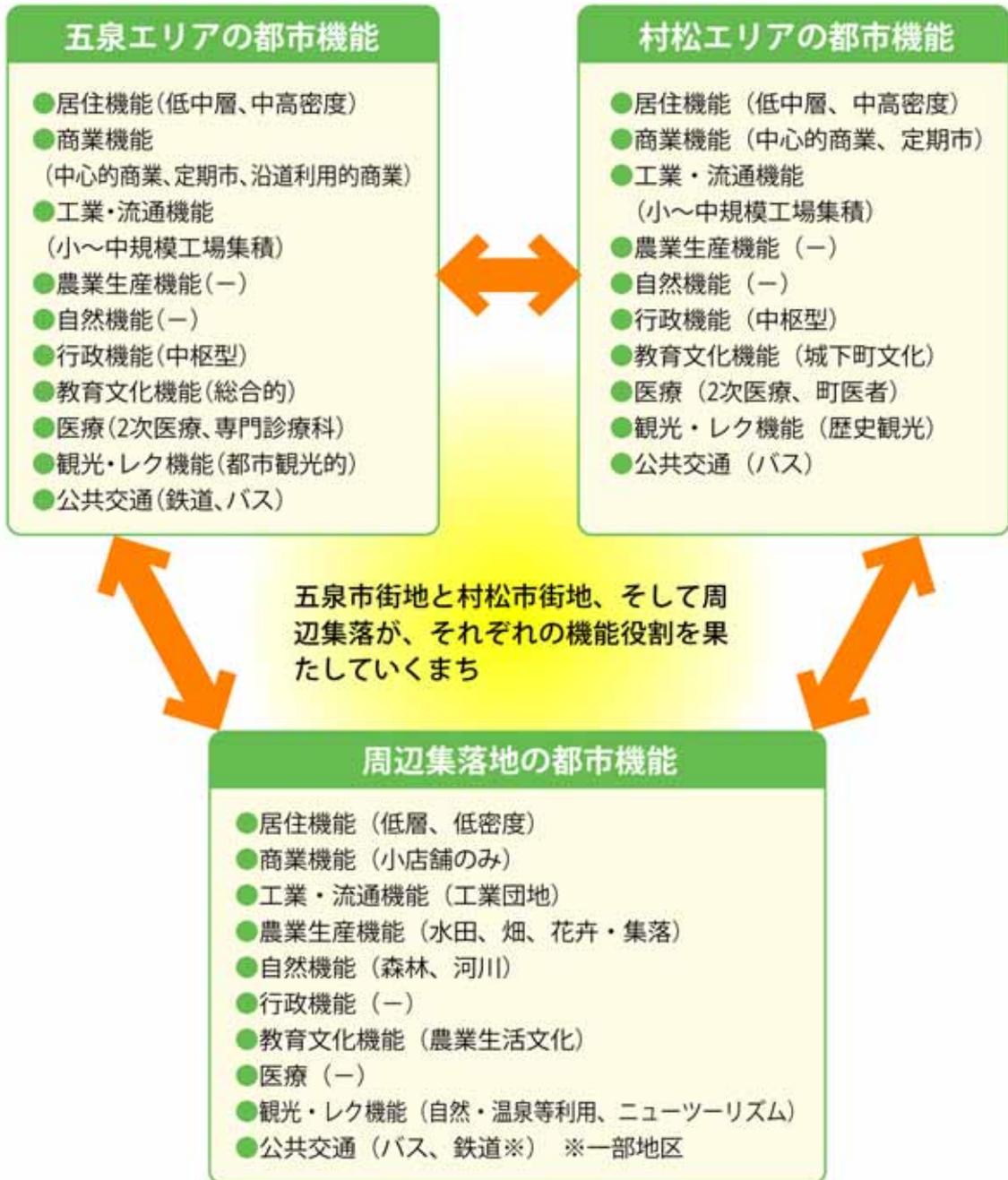


図 - 目標とする都市像の考え方

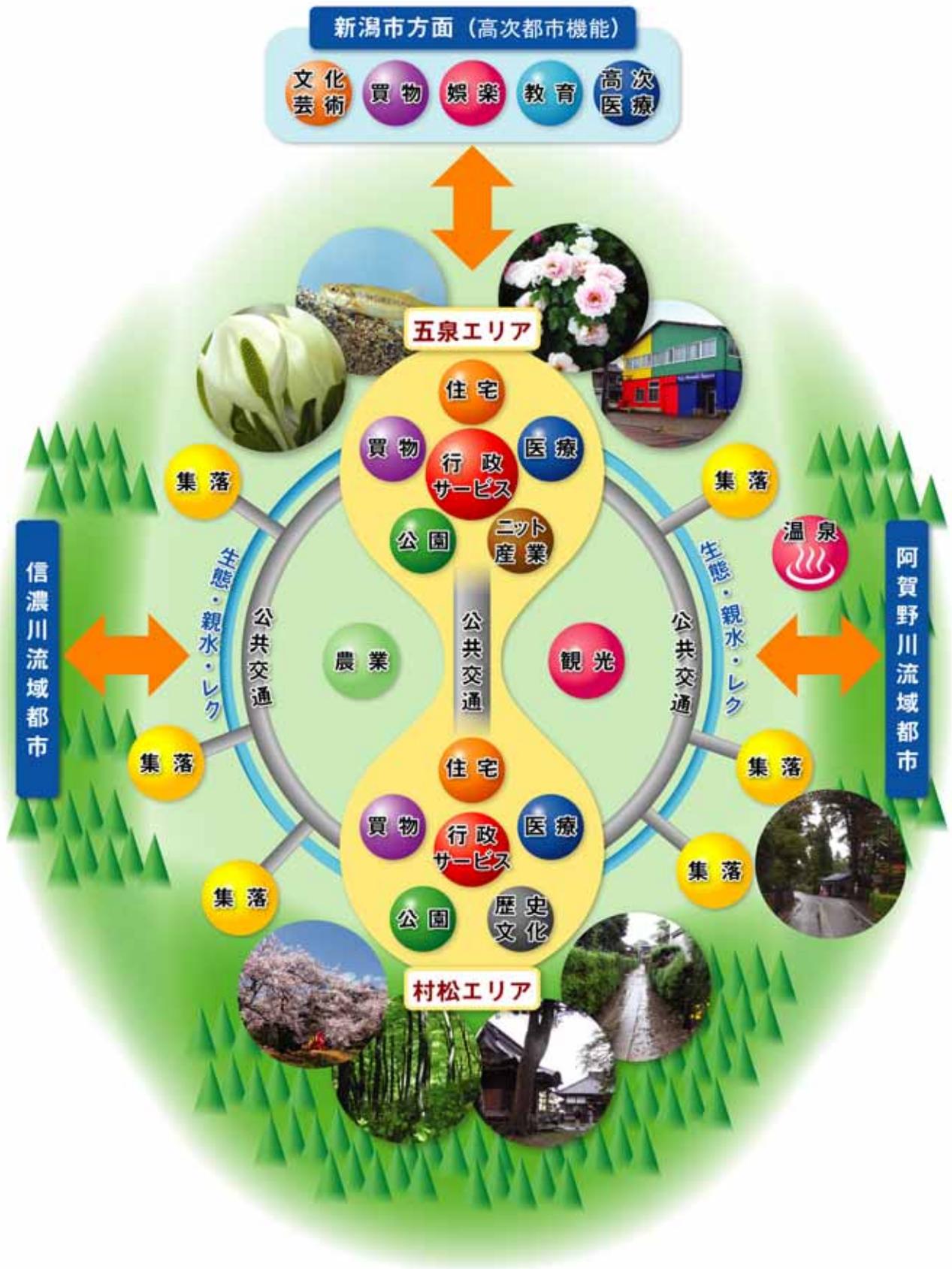


図 - 五泉市のコンパクトシティのイメージ図

コンパクトシティによって実現される生活像

都市計画マスタープランは、おおむね 20 年後のあるべき都市の姿を描く計画です。五泉市版コンパクトシティの形成を図ることで、将来の五泉市を次のような姿にしていきたいと考えています。

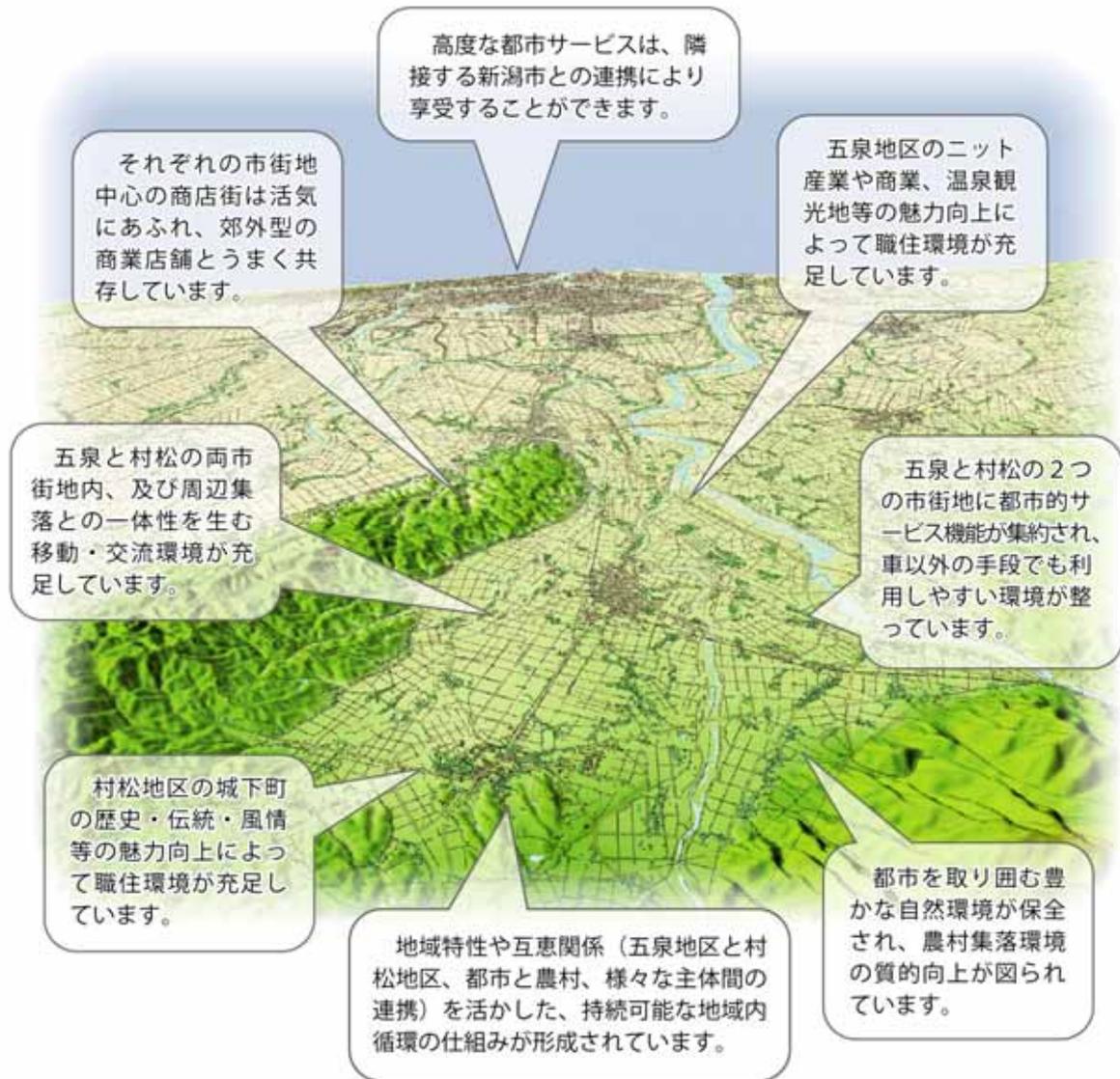


図 - 五泉市版コンパクトシティによる目指すべき将来の姿
(おおむね 20 年後の五泉市の将来イメージ)

(2) 五泉市の将来都市構造



前項で示した「五泉市の目標とする都市像」を実現するため、将来の都市づくりの基本となる「地域」と「拠点」そして「軸」からなる骨格的な都市構造を、以下に設定します。

1) 「地域」の設定

本計画では、市域を次の4つの地域に分けて考えます。

五泉市街地

旧五泉市の市街地（おおむね都市計画用途地域に指定された範囲）を五泉市街地として位置づけます。

村松市街地

旧村松町の市街地（おおむね都市計画用途地域に指定された範囲）を村松市街地として位置づけます。

農村集落地域

都市計画区域内にあって、五泉地域と村松地域の2つの市街地を取り囲む農村集落等の居住地や水田・畑等を主体とした農用地などにより構成される地域を農村集落地域として位置づけます。

自然環境保全・利用地域

上記の地域を東西及び南側に取り囲むように広がる山地・丘陵地は、自然環境保全・利用地域として位置づけます。

2)「拠点」の設定

本計画では、都市構造の拠点として、以下の7つの種類を位置づけます。

中心拠点

五泉駅周辺及び本町通り商店街を範囲とする地区は、商業業務機能をはじめ、教育文化、地域産業など、様々な都市機能の集積と居住機能を確保することで、にぎわいと魅力を発信する市民および来訪者の拠点となる地区として位置づけます。

村松地域の中心商店街を範囲とする地区は、村松城下町の歴史と文化の薫るまちとして、地区の個性や特徴を活かしながら、商業機能をはじめ教育文化、地域産業など都市的サービス機能を維持していくことで、にぎわいと魅力を発信する市民および来訪者の拠点となる地区として位置づけます。

副次生活拠点

副次生活拠点は、商業や医療など市民の日常生活に必要なサービス施設や業務施設等が立地し、中心拠点と一体となって市民生活を支える拠点として位置づけます。

生活結節点

生活結節点は、地域の玄関口として日常生活のための移動時に利用する場所とします。鉄道駅や主要バス停留所などを対象として位置づけます。

ものづくり拠点

ものづくり拠点は製造業等をはじめとした主要産業の生産拠点として位置づけます。

観光交流拠点

温泉宿泊施設が集積する咲花温泉一帯を位置づけます。

また本計画では、市民の憩いやレクリエーションの場であり、地域特性を活かした五泉市の個性を発信する場として、比較的大規模な公園緑地、主要な観光施設などを、主要な交流地と位置づけます。

広域交通拠点

五泉市と隣接する市域に存在する広域交通の玄関口となる高速道路インターチェンジ（磐越自動車道：新津IC、安田IC）を広域交通拠点として位置づけ、五泉市の各地域や拠点とのアクセス性を高めます。

行政サービス拠点

当面の期間は、市民の行政サービスの中心となる市役所及び村松支所を行政サービス拠点として位置づけます。

3)「軸」の設定

本計画では、以下の4種類の軸を位置づけます。

基幹都市軸

基幹都市軸は、五泉地域と村松地域の2つの地域を結ぶ〔主要地方道新津村松線〕を、目標とする都市像である「2つの市街地の魅力向上と連携」を具現化する最も重要な軸として位置づけます。

広域交流連携軸

3つの地域(市街地・農村・自然地)相互や、隣接する都市・地域を広域的に結ぶ道路・鉄道を、人・物・情報が行き交う都市の発展軸と位置づけます。特に、高次な医療・文化機能や80万人の居住機能を担う県都新潟市との連携強化を目指します。

南北を結ぶ道路軸として、〔国道290号〕〔主要地方道新津村松線〕〔主要地方道新津村松三川線〕を位置づけます。

また東西を結ぶ軸として、〔国道290号〕〔主要地方道白根安田線〕〔主要地方道新潟五泉間瀬線〕〔主要地方道村松田上線〕〔一般県道猿和田五泉線〕および〔鉄道(JR磐越西線)〕を位置づけます。

地域連携軸

地域連携軸は、基幹都市軸と広域交流連携軸を補完し、3つの地域(市街地・農村・自然地)や地域内の各拠点を結ぶ生活軸として位置づけます。

水と緑の環境軸

水と緑の軸は、市民の日常生活や産業活動に与える様々な恵みを保全しながら、市民のみならず来訪者も含めた観光・レクリエーション地としての活用も図る軸として、五泉市の地形の特徴である2つの河川(早出川と能代川)及び市域北側を流れる阿賀野川を位置づけます。

他の軸と異なり、道路交通の移動空間としての利用はできませんが、都市の基盤を形成し、都市の環境を守り豊かにする軸として計画に位置づけます。

